女性目線で丹波市の魅力を
切り取った情報誌
「tocco」が完成しました

「tocco」は、都市部のカフェなどに設置されています

女性目線で丹波市だからこそできる過ごし方を提案する情報誌「tocco」（トッコ）が完成しました。

“心のコリをほぐす旅 “と題した旅のルートの提案など、市内の魅力がギュッと詰まっています。

あなたの起業の夢　応援します
「たんばチャレンジカフェ」オープン！

起業をめざす人たちを支援する「たんばチャレンジカフェ」が5月1日（木）に、丹波市商工会春日支所に誕生しました！市商工会長や市長など、関係者が集まり、開所式が行われました。

起業の支援とフォローアップを実施

農業、林業、観光、商業など、さまざまな分野で起業を志す若者や女性などに対して支援を行う「たんばチャレンジカフェ」には、平日、専門の相談員が常駐しています。「起業したいけれど、事業計画書のつくり方がわからない」「どんな補助金の制度があるのか教えてほしい」など、起業をめざす人たちの相談や疑問に、専門スタッフがアドバイスを行います。また、すでに起業をしている人は、経営の悩みを相談できたり、経理や税務のアドバイスを受けたりと、起業後のフォローアップも受けることができます。

仲間をつくることができる場所

また、起業という同じ志をもった人たちが交流できるのもチャレンジカフェの特徴です。談話室でおしゃべりを楽しみながら仲間をつくったり、起業家との交流を通して人脈づくりができたりします。

そのほかにも、Wi-Fi（無線LAN）の使用が可能。また、オフィスが整う前に商談ができるスペースがあり、ソフトとハードの両面からみなさんの起業を応援します。

cafe menu
- チャレンジカフェでできること -

●さまざまな相談ができる！

資金や経理、労務、法的問題などの相談ができます。

●役立つ情報を発信！

起業するときに活用できる各種の制度やさまざまな支援事業、セミナー情報などを提供します。

●起業家と交流ができる！

起業をめざす人やすでに起業をした人、起業を応援する人が自由に交流できる場を提供します。

●あなた自身のパワーアップを応援！

起業するうえで必要な知識や技術を身に付ける場合に支援を行います。また、起業したばかりの人が、顧客開拓や資金確保などに必要な知識を習得する場合にも支援を行います。

問 たんばチャレンジカフェ（商工会春日支所内）☎74-0208

VOICE 先輩起業家の声

北　信也さん（29）
カフェオーナー

「こんな補助制度があったんだ」と起業後に知ることも。気軽にアドバイスを受けられる場ができたことはよいことですね。集まった人々が意見を交わし、新しいビジネスが生まれる。そんな期待をしています。

挑戦には失敗がつきものです。このカフェが、起業を志す仲間を見つけ、知識を吸収できる場になるのはもちろんのこと、たとえ失敗しても仲間で助け合えるセーフティーネットとしての役割を果たす場になればいいですね。

前川進介さん（35）
Iターンの起業支援シェアハウス「みんなの家」オーナー

開所式には、約80人が参加。名刺交換をする姿が見られました

われら 地域おこし協力隊

左から芦田真之さん、辻市長、大久保省良さん

- 創意工夫で持続可能なまちに -
丹波市に2人の“新鮮力”

「地域おこし協力隊」に、大阪市出身の芦田真之さん（30）と大久保省良さん（30）が就任しました。

「自然エネルギー」と「恐竜」を生かした地域づくりに挑む

都市部で暮らす人材を新たな担い手として受け入れ、地域の活性化をめざす「地域おこし協力隊」に、大阪市出身の芦田真之さんと大久保省良さんが就任。5月1日（木）に、委嘱式が行われました。任期は1年で、最長3年間、市内で活躍します。

「間伐材を建築資材として使える仕組みをつくりたい」と話す芦田さん。利用されていない木材を燃料として活用できるように推進するなど、自然エネルギーである木質バイオマスを生かした地域づくりに挑戦します。また、丹波竜を活用して、楽しみながら市内の豊かな自然環境を学べるプログラムを企画・実践する大久保さんは、「身近に恐竜について学ぶことができる環境をつくり、だれでも恐竜博士になれるまちをめざしたい」と抱負を話してくれました。

新しい橋の架け替えを前に
- 広田のつり橋 お別れ会 -

「ありがとう！生まれかわって、また会おう」

広田のつり橋（山南町阿草・下滝）の架け替え工事を前に、地域住民や上久下小学校の児童が集まり、4月30日（水）に、お別れ会が行われました。

篠山川に架かる長さ約65m、幅2mの広田のつり橋は、昭和6年に建造。以降、80年以上もの間、地域に暮らす人々の生活を支えてきました。

しかし、近年、橋の老朽化が進み、丹波竜の里整備計画の一環で、架け替えが行われることに。新しい橋は、来年3月にお目見え予定。周囲の環境に調和したつり橋として、新たな地域のシンボルとなることが期待されています。

上久下小学校の児童約70人もお別れ会に参加

長年、地域の暮らしを支えたつり橋に別れを告げようと、渡り納めをする地域の人々

■ INTERVIEW

つり橋とともに歩んだ80年

友井徳行さん（85）
山南町阿草

私が2歳の時に、この橋はできました。昔は、雪がたくさん降ったので、橋の上の雪かきにはとても苦労しましたね。また、夏にはホタルを眺めながら夕涼みをしたのもよい思い出です。現在の橋との別れは寂しいですが、新しくできるつり橋の完成を楽しみに待っています。